

平成31年度 学校経営計画に対する自己評価計画書

石川県立金沢二水高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1. 学習指導： 探究型授業を推進し、積極的に学習に向かい、主体的に学ぶ姿勢を育成する。	① 生徒が「予習→授業→復習」の学習サイクルを確立し、主体的に学習に取り組むようにする。	教務課 各学年 各教科	昨年度12月の家庭学習時間3時間以上の生徒の割合は全体で57.8%(1年35.0%, 2年45.5%, 3年93.1%)で、前年度より5.0%下降しており、学習習慣の確立が必要である。学ぶことの意味を伝え、より主体的で質の高い学習態度を身に付ける取り組みを進めていかねばならない。	【成果指標】 生徒が家庭学習時間を3時間以上確保している。	平日の家庭学習時間の平均が3時間以上である生徒の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 昨年度：57.8%	C以下の場合、結果を分析し、改善策を検討する。	7月・12月に調査。 (学校評価生徒アンケート)
	② 変化の激しい社会の中で、生徒が将来様々な問題や課題に直面しても対応できる論理的思考力や表現力を身につけるように授業改善を推進する。	教務課 各教科	本校ではこれまでもAL型授業の推進・ICT機器の活用等を進めてきたが、生徒が論理的な思考力をより一層深め、表現力を高めていくような、探究型の授業を推進する必要がある。	【満足度指標】 授業は生徒にとって論理的思考を深めたり、表現力を高めたりすることに役立っている。	「授業を通して思考力が高まった」、「授業を通して表現力が高まった」の問いに対して「あてはまる」と答える生徒の平均が A：50%以上 B：40%以上 C：30%以上 D：30%未満 昨年度：31.6%	C以下の場合改善策を検討する。	7月・12月に調査。 (生徒による授業評価)
	③ 授業やあらゆる学校行事の機会を利用して、自分の意見や調べたことを発言・発表できる場と雰囲気をつくり、失敗をおそれずに応答や意見発表ができる生徒の増加を図る。	教務課 各教科	本校生徒は高い資質と品性を備えているものの、自己肯定感や積極性がやや低い傾向が見られる。将来グローバル社会におけるリーダーとして活躍するために、学習意欲の向上はもとより、自己肯定感や積極性を身に付けさせる。	【成果指標】 生徒は授業中等に、質問や自分の意見を積極的に発言・発表することができる。	「授業中に積極的に発言・発表することができる」と答える生徒が A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満 昨年度：48.6%	C以下の場合改善策を検討する。	7月・12月に調査。 (学校評価生徒アンケート)
	④ 探究型授業の基盤となる豊かな知識を身につけるため、生徒の読書活動を推進する。また、二水版ビブリオバトル(競技スタイルの書評プレゼン大会)を充実させることにより、的確な発信力の育成にも一層努める。	図書課 各教科 各学年 各部顧問	昨年度の図書の貸し出し冊数は、一昨年度より173冊多い2,916冊であった。今年度も昨年度に引き続き、課題探究活動時の調べ学習、二水版ビブリオバトル等、あらゆる機会を捉えて図書館利用を促進していく必要がある。	【努力指標】 図書の貸し出し冊数が増加している。	図書の貸し出し冊数が A：3,000冊以上 B：2,800冊以上 C：2,600冊以上 D：2,600冊未満 昨年度：2,916冊	C以下の場合改善策を検討する。	7月・12月に調査。

平成31年度 学校経営計画に対する自己評価計画書

石川県立金沢二水高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
2 進学指導： 保護者との連携を深め、高い進路目標を強い意志を持って実現する生徒を育成する。	① 担任面談、学年集会、進路講演会、進路説明会等で、積極的に情報を提供することによって、より高い志望を掲げ、その志望を貫ける生徒を育てる。	進路指導課 第3学年	高い志望を掲げる生徒は多い。第一志望を貫く生徒も増えているが、ねばり強く、自らの進路目標に向け努力させる事が課題である。	【成果指標】 難関大（北大、東北大、東大、名大、京大、阪大、九大、東工大、一橋大、神大、医学部医学科）または金大が第1志望である生徒数の割合。	3年生の9月段階で難関大・金大を志望する生徒の割合が A：65%以上 B：60%以上 C：55%以上 D：55%未満	C以下の場合、結果を分析し、改善策を検討する。	3年9月の進路志望調査。
	② 進路検討会や日常の情報交換を通じて、授業や部活動で関係する生徒の成績を把握し、進路志望について助言に努める。	進路指導課 各学年	担任は進路志望調査や学習時間調査、試験結果等に基づき面談を重ね、生徒と向き合っている。また、教科担任や部活動の顧問なども関わる生徒の進路希望を理解、把握し、さらに学校全体で組織的に指導する意識を全職員で共有していかなければならない。	【努力指標】 教員は授業を受け持つ生徒や顧問をしている部の生徒の成績を把握し、進路志望について助言に努めている。	「授業を受け持つ生徒や顧問をしている部の成績を把握し、進路志望についての助言に努めているか」の問いに対して、「よくあてはまる」または「おおむねあてはまる」と答える教員の割合が A：90%以上 昨年度 B：80%以上 よ く：31.4% C：70%以上 おおむね：51.4% D：70%未満 合 計：82.8%	C以下の場合、結果を分析し、改善策を検討する。	7月・12月に調査。 (学校評価教員アンケート)
	③ 保護者懇談や保護者対象の進路説明会、生徒への面談をとおして、生徒の進路に関して保護者と緊密な情報交換を行い、信頼関係を築く。	進路指導課 教務課 各学年	本校の進路指導の中心は生徒面談であり、担任は十分時間を使って生徒と向き合っている。しかし、その指導内容が保護者にも十分に伝わっているとは言えない。一昨年度よりスケジュールノートを作成し、保護者欄を設けて面接に使用しているが、まだまだ活用までにはいたらなかった現状もある。	【満足度指標】 保護者が満足できる進路指導、情報提供がなされている。	「本校の進路指導や保護者への情報提供は適切であるか」の問いに対して「よくあてはまる」または「おおむねあてはまる」と答える保護者の割合が A：90%以上 昨年度 B：80%以上 よ く：19.2% C：70%以上 おおむね：62.3% D：70%未満 合 計：81.5%	C以下の場合、結果を分析し、改善策を検討する。	7月・12月に調査。 (学校評価保護者アンケート)
	④ 担任面談、学年集会、進路講演会、進路説明会等で目標達成に向けての生徒の取り組みを評価し、意欲を高めるとともに、入試対策を充実させることにより進路実績の向上を図る。	進路指導課 3学年 各教科	昨年度の現役合格者は金大62名、難関大は19名であった。第一志望を貫く指導に一定の成果が窺えるものの、今後、現役の進路実績を向上させるため、教員の授業力向上や工夫が求められる。	【成果指標】 難関大と金大の現役合格者数	現役合格者数が A：金大が80以上かつ難関大が30以上 B：金大が80以上かつ難関大が30未満 C：金大が80未満かつ難関大が30以上 D：金大が80未満かつ難関大が30未満	C以下の場合、結果を分析し、改善策を検討する。	年度末に集計。

平成31年度 学校経営計画に対する自己評価計画書

石川県立金沢二水高等学校

重点目標	具体的取組	担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
3 人間形成に主眼をおいた生徒指導を行い、進学校にふさわしい部活動を追求する。	① 効率的な部活動による生徒の学習時間の確保や、学習環境の整備に努めるとともに、部員が主体的に活動する指導を工夫し、技能や成績を向上させる。部活動で得た自信を勉学につなげ真の文武両道を目指す。	生徒課 各部顧問	時間の使い方が上手くいかず、勉強・部活動のどちらもが中途半端になり思い悩む生徒も少なくない。時間的な制約のある中で部員の意識を高め、場面の切り替えや効果的な時間の使い方ができる部員を育てなければならない。	【成果指標】 生徒自身が勉強と部活動の両立ができています。  【成果指標】 県高体連集計の県総体の順位で上位を目指す。	① 勉強と部活動の両立ができています」と答える割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 昨年度：73.3%  ② 高校総体の学校順位が A：8位以上 B：10位以上 C：12位以上 D：13位以下 昨年度：14位	①、②それぞれについて、C以下の場合は改善策を検討する。	7月・12月に調査。 (学校評価生徒アンケート)  県高体連の集計。
	② 生徒が挨拶を自ら積極的に行うよう、教職員が一致した指導を行い、生徒の自覚を高める。	生徒課 各学年 各部顧問	活気ある学校づくりには、元気な挨拶が不可欠であるが、校内での会釈等は徐々に良くなっているものの、積極的に挨拶する生徒はまだ少ない。	【成果指標】 生徒が日常の挨拶をしっかりと行っている。	「挨拶はしっかりと行っている」と答える生徒が A：60%以上 B：40%以上 C：20%以上 D：20%未満 昨年度：33.8%	C以下の場合は改善策を検討する。	7月・12月に調査。 (学校評価生徒アンケート)
	③ 本校の「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめアンケート、個人面談・保護者懇談や学校行事等の取り組みを確実に実施することで、いじめの発生を防ぐ。	生徒課 教育相談室 保健環境課 各学年 全教職員	幸い、昨年度もいじめ事案は発生していないが、決して油断することなく、予防のための取り組みと適切な対応にしっかりと努めなければならない。	【成果指標】 本校のいじめ予防のための取り組みは、十分成果を上げている。	「十分取り組んでいる」と「取り組んでいる」の割合が A：95%以上 B：90%以上 C：75%以上 D：75%未満 昨年度：98.5%	C以下の場合は改善策を検討する。	7月・12月に調査。 (学校評価教職員アンケート)
	④ 日頃からの生徒観察とおして気づいたことを見過ごさず、学校全体が連携して、心身の調和を基盤とした生徒の人間形成を図る。	教育相談室 保健環境課 各学年	様々な悩みや心身の問題を抱えながら学校生活を送る生徒が増加しており、学校、家庭間の連携はもとより、専門医等生徒と関わるすべての機関と連携して予防や早期対応に努める必要がある。	【努力指標】 不安やストレスを抱える生徒に対し、教職員全体の共通理解に基づいた支援体制を確立する。	「担任・教育相談室・保健室等と連携し、問題(悩み)等を抱える生徒の早期発見・早期解決に努めているか」の問いに対して「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答える教員の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：50%以上 D：50%未満 昨年度：94.3%	C以下の場合は改善策を検討する。	7月・12月に調査。 (学校評価教員アンケート)
	⑤ 部顧問や保健体育科等と連携し、生徒自身がけがの予防(熱中症予防)、傷病時の対応等(AED講習、応急処置等)ができるよう指導を行い、自己管理能力を高める。	保健環境課 各部顧問 保健体育科	保健室利用のうち外科的利用の件数は、近年、減少傾向も見られるが600～700件前後で推移している。 H26(605件)→H27(752件)→H28(795件)→H29(626件)→H30(473件) スポーツ振興センター申請件数も、100件程度で推移している。 (H26(100件)→H27(102件)→H28(94件)→H29(102件)→H30(62件))	【成果指標】 保健室の外科的利用の件数が減少する。	保健室の外科的利用の件数が、 A：400件未満 B：500件未満 C：600件未満 D：600件以上 昨年度：473件	C以下の場合は改善策を検討する。	年間の集計に基づき評価。

平成31年度 学校経営計画に対する自己評価計画書

石川県立金沢二水高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
4 教職員が常に改革意識を持って業務の効率化をはかり、よりよい教育活動を追求する。	会議運営や文書作成のさらなる効率化を行い、また、ICTスキルアップや業務の優先順位付け等を通して、教職員の業務効率化の意識を醸成する。	全教職員	時間外勤務が月80時間を超える場合があり、教育の質を落とさず、時間外勤務を減らす努力が求められている。	【努力指標】 ワークライフバランスを意識して、生徒と向き合う時間を確保している。	「生徒と向き合う時間の確保に努めている。」の問いに対して「よくあてはまる」と答える教員の割合が、 A：80%以上 B：60%以上 C：40%以上 D：40%未満 昨年度41.4%	C以下の場合は改善策を検討する。	7月・12月に調査。 (学校評価教員アンケート)